

レー・ドゥク・リュウ

在大阪ベトナム総領事

日本とは長い付き合い

ベトナムと日本の交流の歴史は古く、16世紀末から続いています。とくに1604年から1635年にかけては多くの日本の商船が両国間を行き来しており、なかでも末吉孫左衛門という大坂商人の名は、ベトナムでも良く知られています。また、ユネスコの世界遺産に登録されたホイアンという古都には、当時大規模な日本人街があり、1593年に日本人が建設したと伝えられる来遠橋（別名：日本橋）もあります。現在は、関西国際空港からベトナムの各都市への直行便が毎日就航しており、文化・観光の交流が活発化するとともに、両国の友好関係が一層促進されています。とくに経済面においては、大阪の食品、家電、鉄鋼など多くの企業が、ベトナムで活発な事業を展開し、両国政府の指導者は、さらなる経済振興に向けた戦略的関係を築こうと意見を一致させています。

関西全体との文化交流を

ベトナムと日本は、今年国交樹立35周年を迎えました。その記念行事として、今年9月16日にベトナムの国会議員団が来日し、「ベトナム文化の夕べ」が大阪市内で開催されました。また2010年には、首都ハノイは建都1000年祭を迎えます。時を同じくして、奈良県では平城遷都1300年を記念した事業が行われますが、私たちはこれらを契機として、関西地域全体との文化交流を促進したいと思っています。

外国人は京都や奈良へよく行きますが、大阪はこうした地域への観光ルートのひとつとして、重要な位置付けにあります。その意味で、水路を活かした「水都大阪2009」のような取り組みは、すばらしいアイデアだと思います。ベトナムの南部も川を活用して発展してきました。水上人形劇もそういうところから生まれました。大阪にも文楽がありますが、私たちの歴史的な文化も、いつかは是非ご紹介したいと思っています。

文化で共生する

ベトナムにはキュウ・ロン（Cuu Long）デルタという、豊かな自然と川に恵まれたところがあります。観光客も多く訪れるところですが、そこでは水上交通や水上マーケットなど、川が生活の一部となって活用されています。その川でお祭りも行なうなど、大阪と似ている一面もあります。

私は、在大阪ベトナム総領事として赴任してまだ1年ですが、大阪は、大阪城や四天王寺といった歴史的建造物に加え、文楽や歌舞伎、生け花、茶道といった大阪発祥の伝統文化が、しっかり継承・発展しているところだと感じました。また、稲作や米食、蓮に対して感じる仏教的な精神性など、日本との共通点も多く発見しました。私は、これからはそうした素晴らしい日本の文化と世界の文化を交流させ、文化で共生する時代にあると思っています。

在大阪ベトナム総領事館（大阪市中央区）にて

レー・ドゥク・リュウ（LE DUC LUU）氏

外務省入省（1981）の後、同省ラオス、カンボジア、インドネシア、オーストラリアなどの東南アジア及び南アジア諸国地域担当、同省労働組合委員長、同省局長を歴任。2007年より現職。



表紙の人 / 里中満智子（さとなか まちこ）氏

漫画家・大阪芸術大学キャラクター造形学教授。創作活動以外にも多彩な社会活動に取り組む。平城遷都1300年記念事業協会評議員。P9に記事。